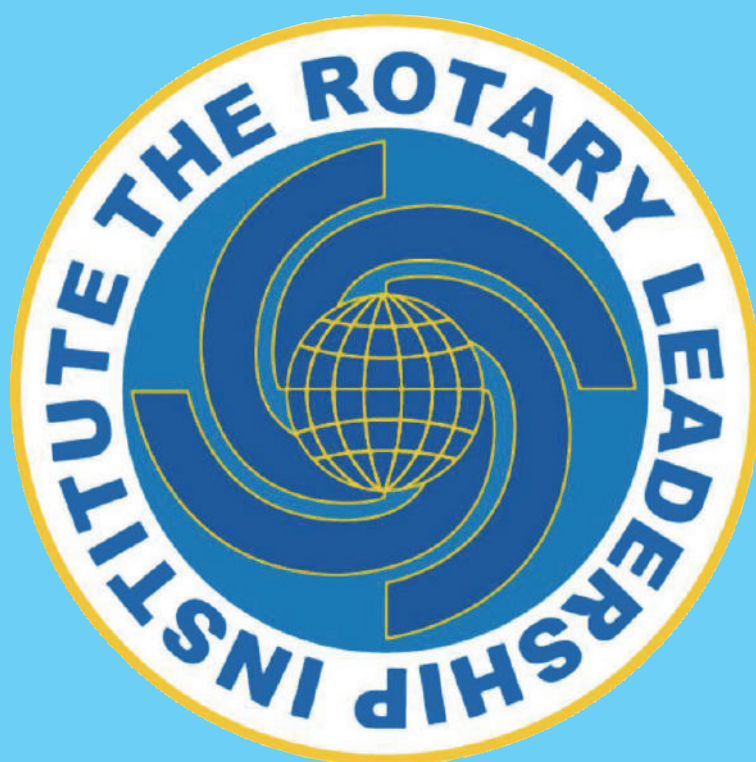


ロータリー・リーダーシップ研究会

The Rotary Leadership Institute(RLI)

RLI 参加者テキスト



RLI
2022~23

RLI 日本支部

カリキュラム委員会

ロータリー・リーダーシップ研究会

The Rotary Leadership Institute (RLI)

RLI 参加者テキスト

目 次

日本語版テキスト発刊にあたり R L I 日本支部委員長 北 清治	4
日本版カリキュラムについて R L I 日本支部カリキュラム委員長 刀根荘兵衛	5
6つのカリキュラム・フレーム	6
R L I カリキュラムの内容	
パート I	7
1. ロータリーにおけるリーダーシップ	10
2. 私のロータリー世界	11
3. 倫理と職業奉仕	16
4. 財団 I 私たちの財団	19
5. 会員の参加を促す	24
6. 奉仕プロジェクトを創造する	33
パート II	35
1. 戦略計画とクラブの分析	37
2. 会員を勧誘する	53
3. チーム作りとクラブコミュニケーション	58
4. 米山記念奨学事業	64
5. ロータリー財団 II 目標とする奉仕	67
6. 強いクラブを創る	84
パート III	97
1. ロータリーの機会	99
2. 効果的なリーダーシップ戦略	105
3. ロータリー財団 III 国際奉仕	108
4. 公共イメージと広報	112
5. 規定審議会・決議審議会	113
6. 変化をもたらす	118
卒後コース	121
卒後コースについて RLI 日本支部カリキュラム副委員長 井原 實	122
1. ロータリーの歴史	124
2. ロータリーの理念	142
3. ロータリーの新しい流れ	155
4. クラブを元気にしよう	168

日本語版テキスト編集発刊にあたり

RLI日本支部委員長 北 清治

この度、RLI研修テキスト（2022—23年度）日本語版を再編集して発刊できますことを大変嬉しく思っております。

今回の発刊にあたりまして日本支部カリキュラム委員長刀根荘兵衛さん副委員長本田博己さん副委員長井原實さんのご尽力に深く感謝申し上げます。

コロナ禍オンラインによる長時間の会議を13回に及んで開催され、卒後コースを加え仕上げて頂きましたことに重ねて敬意を表する次第です。

RLIは1992年アメリカ・ニュージャージー州第7510地区において、元RI理事デビット・リンネット氏の発案で始められた草の根による研修組織であります、永年に亘って委員長としてリーダーシップを発揮されてきました。世界の410以上の地区が参加するまでに成長し30年が経過しております。

2020年7月1日より元RI理事マクガバン氏が後任の委員長に就任されております。本部体制も刷新されると共に、カリキュラムに関する方針も変更され、従来のRLI「標準」カリキュラムに、新たな6つの「フレーム」構成が導入されました。そして、各支部は地域や会員のニーズに応じて、柔軟に適応できる独自のカリキュラムを組み立てることも可能となりました。

RLIプログラムはRI理事会によって推奨されておりますと共に、3年ごとに開催される3回の規定審議会でも力強く支持されております。

日本におけるRLIは、2008年6月元RI理事南園義一日本支部委員長の下でスタートしております。2011年7月元RI理事黒田正宏氏に日本支部委員長が引き継がれ、2015年7月から不肖私が日本支部委員長をお引き受けし今日に至っております、日本に導入後14年が経過しております。

現在29地区の参加を得るまでに成長しましたことはRLIの重要性を深く認識して頂いている証と思っております。日本の全地区が参加する多地区合同プログラムとして成長することを願っております。

日本全地区の参加によって、ロータリーへの理解とモチベーションを高め、リーダーシップを涵養することによって、ロータリアンの自主性と卓越した指導力を涵養し、クラブの刷新性と柔軟性を育み、一層ロータリーが活性化されることを期待致しております。

特に、地区内におけるファシリテーターやディスカッションリーダー養成の必要性が強く求められております。一日も早くご期待に応えられるよう皆さんと英知を結集して行きたいと思っております。

日本版カリキュラムについて

RLI 日本支部 カリキュラム委員会
2021-2023 年度 委員長 刀根荘兵衛

2021-23 年度カリキュラム委員長を拝命致しております刀根荘兵衛でございます。
至りませんが、引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

さて、1992 年の設立以来、約 30 年間ロータリー・リーダーシップ研究会 (RLI) を牽引されてこれられた D.リンネット氏 (7510 地区 PRID ニュージャージー州) が 2020 年 6 月末を以て引退されることになり、2020 年 7 月 1 日より元 RI 理事マクガバン氏が後任の委員長に就任致しました。

これを機に、本部体制が刷新されると共に、カリキュラムに関する方針も変更され、従来の RLI 「標準」カリキュラムに、新たな 6 つの「フレーム」構成が導入されました。

そして、各支部は会員のニーズに応じて、各セッションのモジュールの中からいくつかのモジュールを選んで、独自のカリキュラムを組み立てることも可能となりました。

さらに、「標準」プログラム以外のセッションも自由に追加することが認められ、RLI の大きな枠組みの中で、各支部でかなりの裁量権が与えられるようになりました。

今回日本支部のカリキュラム委員会では、これらの新しい方針に沿って、日本支部のカリキュラムを見直すと共に、下記に示される各パートの位置づけを再確認し、各パートの構成を改定致しました。

パート I	ロータリアンとしての私
パート II	私たちのクラブ
パート III	私のロータリーの旅

また、このパート I からパート III までの一連のコースの学習を通じて、最終的に「ロータリアンとしての成長とロータリー観の確立を目指す」ことを目標に設問等の全面的なリニューアルを実施致しました。

卒後コースでは、最終目標である「ロータリー観の確立を目指す」中で、改めてコースを振り返り、ロータリーの理解をさらに深めることを目的に、従来のテキストにはなかった日本独自の新たな 4 つのセッションを導入致しました。

さらに、今回のテキスト改訂のもう一つの大きなテーマとして、従来から指摘されていた各セッションの質問内容と翻訳の問題に大胆に着手したことが挙げられます。

従来は、英語版の標準 RLI テキストになるべく忠実にという方針に従い、質問内容も本部テキスト掲載通りに翻訳しておりました。そのため、設問内容が日本のロータリアンにはあまり馴染まない表現がしばしば見受けられました。

そこで今回、RLI のカリキュラムの枠組みを維持しながらも、思い切って設問内容を変更し、日本のロータリアンが議論しやすい内容に改めました。さらに参考資料として、日本支部独自の資料を追加するなど、今まで以上に分かりやすいテキストとなるよう工夫致しました。

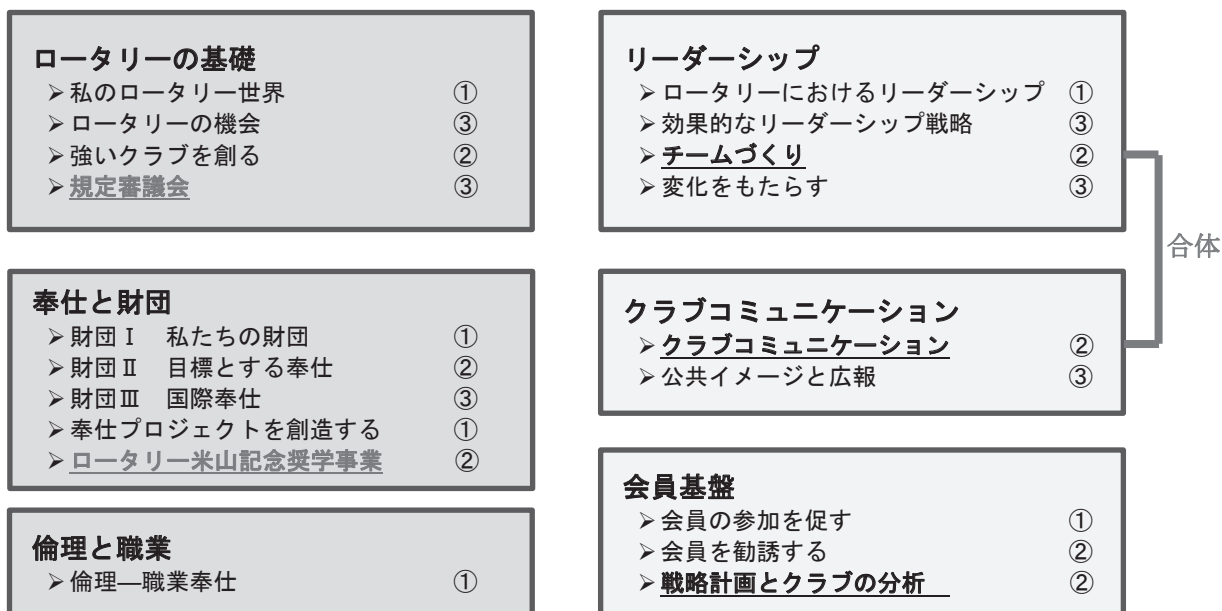
そして、卒後コースでは、パート I からパート III までの中では余り触れられてこなかった歴史や理念の話題、さらには今、ロータリーの最新の流れとなっている重要な話題を取り上げ、参加者の興味や関心を引き出すような内容を提案しております。今まで、卒後コースに取り組んでこられなかった地区におかれましても、是非この機会に、卒後コースにもチャレンジして戴ければと存じます。

まだまだ不十分なところもあろうかとは存じますが、今後、皆様からのご意見を賜りながら、RLI がより効果的な研修ツールとなるよう努力を重ねて参りたいと存じます。

今後とも皆様の変わらぬお力添えをよろしくお願い申し上げます。

6つのカリキュラム・フレーム

標準カリキュラムセッション



注記：日本支部では、規定審議会とロータリー米山記念奨学事業のセッションを追加し、チームづくりとクラブコミュニケーションを合体して、パートⅡの『チーム作りとクラブコミュニケーション』の1つのセッションにまとめました。

各パートの位置付け



パートⅠ ロータリアンとしての私
パートⅡ 私たちのクラブ
パートⅢ 私のロータリーの旅
ロータリアンとしての成長とロータリー観の確立

卒後コース
改めてロータリーを学び、ロータリーをさらに深める